# 都道府県医師会役員として活躍する若手医師の取り組み

# 支えて下さる方々への感謝を学ぶ場としての医師会

村上　学

北海道医師会常任理事
北海道大学大学院医学研究院医学教育・国際交流推進センター　准教授

# 本日の話題

・自己紹介＆北海道＆北海道医師会の紹介

・北海道医師会に関わるきっかけ

・北海道医師会での業務例＆大学業務との両立

・自分が目指す役員像

・上の世代と下の世代の狭間で～大学の研究の一例

・後輩の先生方へのメッセージ＆まとめ

# 自己紹介

北海道出身　44歳
札幌生まれの札幌育ち（生粋の道産子）

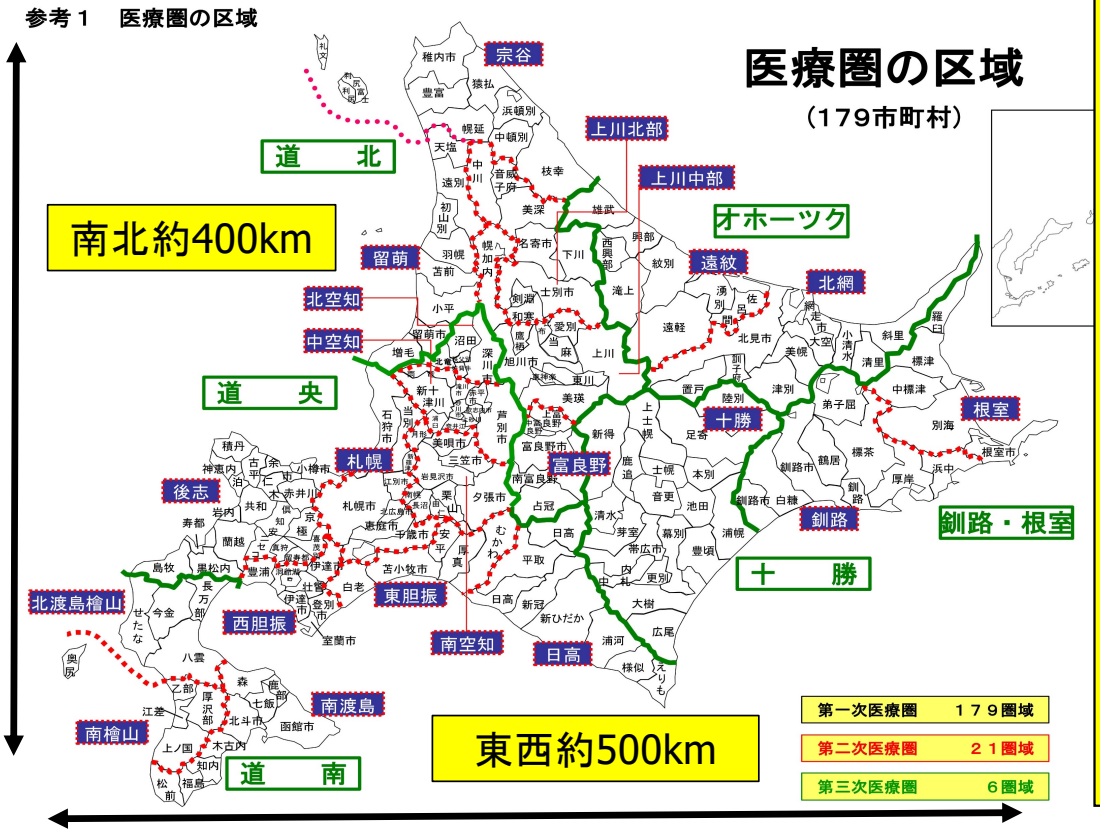
北海道大学医学部卒業（2005年）
北海道大学大学院医学研究科博士課程修了（2011年）

大学院を修了して、教員になってからは、医学教育、
特に卒前教育をメインに担当している。

2023年6月から北海道医師会常任理事
（産業保健部長、学術部副部長）を担当している。

専門領域：　医学教育　プライマリ・ケア　総合診療
キーワード：　地域医療　多職種連携
その他：　医学生時代に学友会誌「フラテ」編集役員（笹本常任理事とのつながり）

# 北海道の紹介（地域事情）




・総面積83,424km$^2$
(日本総面積の22%、東北6圏と新潟県を合わせた面積)

・冬期に最寒月の月平均が0℃以上になるところがない。（多雪地帯の年間最大積雪深3m超、内陸部では-30℃）

・北海道の人口約500万人の4割弱が札幌に住んでいる。

**「広大」「寒冷」「偏在」**

https://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/cis/iryokeikaku/184045.html

# 北海道医師会の紹介

松家治道　会長

昭和22年に新生設立し、会員8000余名を擁する都道府県レベルの医師会。
北海道一円を区域としその区域内の郡市医師会及び医育機関(三大学)医師会の会員で組織。

http://www.hokkaido.med.or.jp/index.php

# 北海道医師会に関わるきっかけ①

病院長（大学医師会長）：　長らく務められていた前任の教授が退職されることになりました。医師会では、**毎月２回の会議**があるらしいけれど、出席できる時だけでOK。書類の締切が明日になってしまって、先生への依頼はギリギリになってしまった。**すでに退路は断たれた状態**ですが、よろしくお願いします。

村上：　承知いたしました。（・・・えっ！？それ、若い人が受けて大丈夫ですか？）
　　とりあえず、上にも相談させていただければと存じます。

《関係者との相談にて》

学部長（所属センターの長）：　（さくっと）問題ないですよ。

病院長＆学部長：　まあ、先生の将来の社会勉強ということですね。

村上：　承知いたしました。（・・・えっ！？こんなにあっさり決めていいのですか？）

# 北海道医師会に関わるきっかけ②

《初めての定時代議員会にて》

村上：　北大の村上と申します。昨日、ご連絡差し上げた者です。
　　あの・・・、すみません。私はどちらに座っていればよろしいのでしょうか。

事務局：　先生、お待ちしておりました。ここにお座りいただきます。

村上：　承知いたしました。（・・・えっ！？部屋の隅の空き椅子でなくてひな壇ですか？）

笹本参与：　先生、よく来たね。今度、北大から誰が選ばれる
　　と思ったら、先生なんだってね。みんなに紹介して
　　おいてあげたよ。頑張ってね。期待しているからね。

村上：　承知いたしました。どうもありがとうございます。
　　（・・・周りが皆、年配者みたいですが、大丈夫ですか？）

笹本洋一　日本医師会常任理事
https://www.med.or.jp/nichiionline/article/011259.html

# 北海道医師会での業務例①

（産業保健部長として）

・毎月2回ではなかった！
（毎月2回＝常任理事会）

・医学教育でも総合診療でもない初めての経験がたくさん！
（こんな業務あったの？）

・右も左もわからないし、とりあえず、右倣えでこなそう･･･

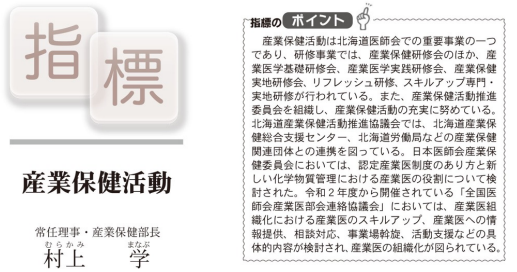
・あちこち出張もありそうだし、大学との両立は大丈夫･･･？

1．産業保健活動の推進
⑴産業保健活動推進委員会の開催
⑵北海道産業保健活動推進協議会の開催
⑶郡市医師会産業保健活動への協力
⑷労働安全衛生コンサルタント会への支援と協力
⑸日本産業衛生学会北海道地方会への支援と協力
⑹産業医と精神科医等精神保健関係者との連携の推進

2．産業医研修事業の実施
⑴産業医学基礎研修会の開催
⑵産業医学実践研修会の開催
⑶北海道補助事業
1）産業保健研修会の開催
⑷産業医学振興財団受託事業
1）リフレッシュ研修の実施
2）スキルアップ専門・実地研修の実施
⑸日本医師会認定産業医の登録と単位管理
1）新型コロナウイルス感染症に係る特例措置への対応
⑹各種研修会等の情報提供

3．北海道労働局との連携・協力

4．北海道産業保健総合支援センターとの連携・協力




http://www.hokkaido.med.or.jp/medical_report/detail.php

# 北海道医師会での業務例②

・臨床研修指導医の資格も未取得のまま総合司会！
・学術大会の初めての座長が北海道医学大会総会！

## （学術部副部長として）

**北海道・北海道医師会「第 21 回指導医のための教育ワークショップ」プログラム**
**テーマ「オール北海道で研修医を育てよう 」**

1 日目　令和 6 年 2 月 3 日（土）　590 分

| 時刻 | ｾｯｼｮﾝ NO | 必須 ﾃｰﾏ | 形式 | 所要時間 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 8:30 | | | | (30 分) | 受付（Zoom 接続開始） |
| 9:00 | | | | (15 分) | 開会　役員挨拶　タス |
| 9:15 | | | | **60 分** | オリエンテーション |
| | | | PL | 10 分 | WS の目的・進め方 |
| | | | PL | (10 分) | ブレイクアウトルーム（Zoom）の使い方 |
| | | | P | 10 分 | 事前学習確認クイズ（Kahoot!） |
| | | | P | 30 分 | アイスブレーキング（受講者自己紹介） |
| 10:15 | | | | (10 分) | 休憩 |
| 10:25 | 1 | ④ | | **90 分** | **印象に残る指導医（良い指導医/良くない指導医とは？）** |
| | | | PL | 10 分 | GW 説明 |
| | | | G | 40 分 | KJ 法 |
| | | | P | 35 分 | 全体討議 |
| | | | PL | 5 分 | まとめ |
| 11:55 | | | | (60 分) | 昼食 |
| 12:55 | 2 | ③ | | **100 分** | **カリキュラムプランニング（【事前学習 3】関連）** |
| | | | PL | 20 分 | GW 説明 |
| | | | G | 50 分 | グループワーク |
| | | | RP | 30 分 | 全体討議 |
| 14:35 | | | | (10 分) | 休憩 |
| 14:45 | 3 | ③ | | **70 分** | **北海道における医師養成の問題点** |
| | | | PL | 10 分 | GW 説明 |
| | | | G | 30 分 | KJ 法 |
| | | | P | 30 分 | 全体討議 |

## 第104回北海道医学大会総会プログラム

令和 6 年10月 5 日(土)　於　札幌市（札幌グランドホテル/グランドホール）

◆令和 6 年度北海道医師会賞並びに北海道知事賞贈呈式　【15:00～16:00】
＜グランドホール東＞

◆各科トピックス　＜グランドホール西＞　【16:00～18:00】

| 演題・演者 | 座長 |
|---|---|
| 1.「3 次元（3D）細胞培養を用いた眼科領域研究から全身疾患（癌および心）研究への応用」<br>札幌医科大学眼科学講座<br>教授　大黒　浩 | 旭川医科大学眼科学講座<br>教授　長岡　泰司 |
| 2.「社会の中の法医学―実務志向型研究とその応用―」<br>旭川医科大学法医学講座<br>教授　清水　惠子 | 北海道大学大学院医学研究院<br>社会医学分野法医学教室<br>教授　的場光太郎 |
| 3.「認知症診療の現状と課題」<br>北海道大学大学院医学研究院<br>神経病態学分野神経内科学教室<br>教授　矢部　一郎 | 札幌医科大学保健医療学部<br>作業療法学科・神経内科学講座<br>教授　齊藤　正樹 |
| 4.「原発性アルドステロン症診療の現状と課題」<br>市立札幌病院糖尿病・内分泌内科<br>部長　和田　典男 | 北海道医師会<br>常任理事　村上　学 |

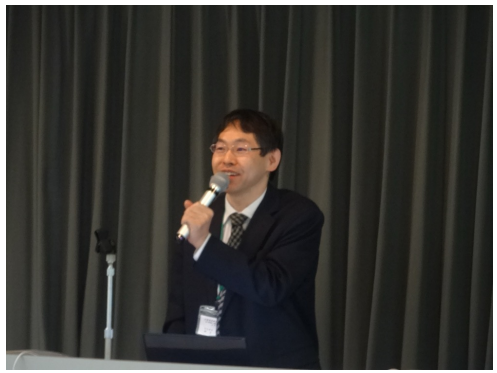
http://www.hokkaido.med.or.jp/igaku/

# 北海道医師会での業務例③

（常任理事として）

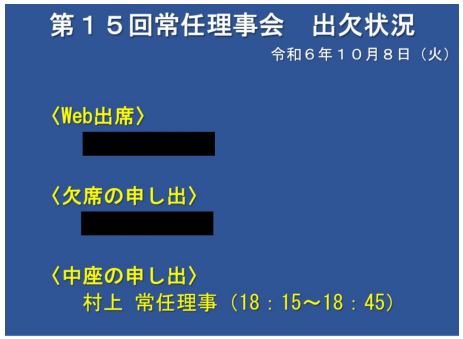
# 北海道医師会での業務例④

若手開業医と若手医師専門委員会委員との懇談会



# 大学業務との両立

・公務優先（入学試験、共用試験[CBT/OSCE]、学内試験、授業、会議etc）
→ 大学での立場＝若手の実務職～自分で業務をコントロールできない
（役員の先生方の多くは管理職の立場）




・大学院の英語授業を掛け持ちしながら常任理事会に参加する場面も・・・

・自分の所掌業務なのに副会長や他の常任理事にお願いせざるを得ないことも・・・
→ 自分も同じ道を経てきたベテランの先生方は全ての事情を理解されています！
→ 困った時は迷わずに頭を下げる。でも、その代わりできることは十分貢献します！

「どうもありがとうございます。」「大変申し訳ございません。」「よろしくお願いいたします。」

# 自分が目指す役員像

・シニアの先生方が築いてこられた伝統を守りつつ、自分らしさも発揮できる役員
（医師会組織を守りつつ、北海道の産業保健活動に一生懸命貢献します）

・シニアの先生方にしっかり頭を下げられる役員
（頼るだけでなく必要な時に頼ってもらえるように努力します）

・足繁く現場に通うことのできるフットワークの軽い役員
（事務局の方々とも常に協力できる姿勢の役員を目指します）

・胸を張って恩師の名前が言える役員
（「俺の目の黒いうちは面倒を見てやる」との約束に応えます）

・ホームランは打てなくても、チームのために送りバントや
犠牲フライが確実に打てる存在になれるのが理想的・・・？

前沢政次　北海道大学名誉教授
www.ccpc.or.jp/category/1504962.html

# 上の世代と下の世代の狭間で～
# 大学の研究の一例

## （世代による価値観の変化）

| No. | Extracted categories | Categories' explanation | Comments' examples stated by the students |
|---|---|---|---|
| 1. | Accustomed to digital devices and reliant on social media for information | Students are naturally accustomed to digital devices and use social media to look up information, yet the overwhelming amount of information and poor literacy limit their understanding. | "For our generation, staying connected with friends through LINE, Twitter (X), and Instagram is totally normal. We're becoming more and more reliant on social media. The younger generations have even less media literacy and are quick to post videos without much thought." |
| 2. | Preferring flexibility and avoiding organisational discipline | Students are looking for a flexible working style and loose membership in an organisation, avoiding close ties with seniors, and are interested in becoming entrepreneurs independently. | "Since we can find a decent amount of information on our own, it feels like we're doing more self-research instead of being taught directly by seniors. This is affecting teacher-student and senpai-kohai (senior-junior) relationships, making those connections weaker, and there's a growing trend of people doing things more independently." |
| 3. | Resistance to face-to-face communication despite disliking fear of missing out (FOMO) | Students are introverted and prefer to be individualistic, avoiding face-to-face communication with others, while still wanting to remain constantly connected to their peers via the internet due to FOMO. | "I'm the kind of person who doesn't study well alone, so I set up an environment where I can stay connected with my friends by studying over video calls. I don't actually talk, and I keep my mic muted, but they can still see me studying through the webcam. Knowing that someone's watching makes me want to stay focused and not slack off." |
| 4. | Preferring outcome-oriented and real-time feedback with good time performance | Students value time performance, prefer simple outcomes over complex processes, want timely evaluation feedback, and require a tailored teaching style that incorporates active learning techniques. | "If you don't put effort into the exam questions or stick to the guidelines when answering, you won't be sure if there's a clear right answer, and stressing over it will waste a lot of time. I think it's enough to just understand that you need to know the basics. Also, please make the answers public." |
| 5. | Pragmatic thinking, emphasising work-life balance over money or career advancement | Students choose careers suited to their abilities with realistic, passive thinking, prioritise personal life over work, and see little value in earning more than a minimum salary or pursuing career advancement. | "I chose my career in medicine with the somewhat shallow idea that it would be stable. I just want to earn enough money to live comfortably in the future. Rather than becoming a surgeon and taking on the risks of performing difficult operations, I'd prefer to work in ophthalmology, dermatology, or cosmetic surgery, where the risks are lower and the returns are higher." |

（下の世代の特徴）

・デジタルデバイスへの慣れ
・フレキシブルな組織帰属性
・緩やかな繋がりを求める傾向
・タイムパフォーマンス重視
・ワークライフバランス重視

（世代を超えた未来ビジョン）

・上の世代が下の世代の価値観を理解し歩み寄る必要性
・下の世代に魅力的な組織であることが後継者育成に不可欠

Takeuchi A, Jin S, Kiuchi T, Murakami M. Are there common characteristics and adjustment processes among Gen Z? Malays J Med Sci. 2025;32:197-9.

役員エッセイ
大通公園を望む窓辺から

若い世代

常任理事　村上（むらかみ）　学（まなぶ）

大学で卒前医学教育を行っていますが、昔とは雰囲気が変わっています。配付資料は印刷配付ではなく、電子媒体で学習支援システムにアップロードし、学生は手元のデバイスにそれをダウンロードして参照しながら授業を受け、キーボード入力やタッチペン書込でノートをとります。出席はスクリーンに二次元バーコードが表示されるので、それをスキャンして入力します。一昔前には見られなかった風景です。

デジタルネイティブの彼らは、考え方も上の世代と大きく変わっているように見受けます。まずコミュニケーション。昔は、部活の上下関係で先輩からいろいろと教わることが多かったし、若い研修医が頑張ったらその日の夜は先輩医師が飲みに誘ってくれて、教科書では絶対に学べない経験を教えてくれたかもしれません。でも、今の時代は、飲み会を時間外に職場の人と付き合う仕事と捉える方も多いでしょう。情報もインターネットで入手する方が早いし、他人に気を遣う必要もありません。組織の

http://www.hokkaido.med.or.jp/medical_report/

# 後輩の先生方へのメッセージ
# （私の個人的な経験から）

・シニアの先生方に頼ることを恐れないようにしましょう！
→ シニアの先生方は寡黙ながらも若い先生方のことを確実に見ています。
→ その代わりに若い先生方にしかできないことをたくさん返すようにしましょう。

・「先に進めて下さい」を言っていただくために、一生懸命、汗をかきましょう！
→ シニアの先生方からたった一言、前向きの判断をご教示いただくために
多くの汗をかいた経験は、将来、絶対に無駄になりません。
→ 先生方が、下の世代の研修医や医学生に臨床知識・技術を教えるように、
上の世代は、先生方に、組織の管理・運営について教えて下さいます。

・シニアの先生方が何か言う時には、必ず、何らかの理由が存在しています！
→ 常に、自分の中で「なぜあの先生はこう言っていたのか？」を自問自答する
と、後から答えが分かった時に「そうだったのか」と新たな発見があります。

・人生経験豊富な年配者のノウハウを問題解決のヒントに！→「爺さん会議」の知恵・・・？

# まとめ

・支えて下さる方々への感謝を学ぶ場としての医師会

→ 若手の私を役員として推薦して下さった大学の先生方、
それを受け入れてご指導下さっている医師会役員の先生方、事務局の方々、
仕事で忙しくても温かく支援してくれる家族、皆への感謝を忘れずに頑張っていきます。

・シニアの先生方への約束

→ 金ほどは輝けないと思いますが、いぶし銀の輝きを目指して、医師会組織のために、
これから少しでも役に立てるように尽力していければと思います。

・私に続く後輩の先生方へのアドバイス

→ 年配者の先生方に受け継がれている大切なノウハウを、少しでも多く、次世代に
伝承できるように、互いに協力しながら頑張っていきましょう。

ご清聴どうもありがとうございました。